

# 農業後継者育成基金事業

## 平成25年度農業高校助成事業（実践力育成助成）

事業主体名 鹿児島県立加世田常潤高等学校

### 1 目的

鹿児島は農業県として多くの農産物が生産されている。本研究は、地域の農産物の未利用資源の活用や消費拡大につなげる等の地域活性化をすることが目的である。その取り組みとして地域農産物を活用して加工品の開発・製造・販売をする。

開発においては地域や学校の農産物に目を向け、時代のニーズに適応した商品も考える。また、新たな展開としてこの活動を六次化の学習に繋げるようにする。

### 2 実施状況

#### (1) 新商品の開発

本年度は、有機生産科と連携したとまとゼリーやとまとジャム、梅肉エキスの開発に取り組んだ。具体的には規格外のとまとや梅を利用したジャムやゼリー、エキス作りを行った。

また、ラベル表示にも手がけ、自分たちの手作りにこだわった商品として販売している。



#### (2) 販売の実施

販売法及び販路拡大については、南さつま市や諸機関との連携により、ファミリーマートや博多阪急百貨店の「第2回うましか甲子園」の販売活動に参加し、鹿児島並びに南さつま市のPR活動も行うことが出来た。



#### (3) 視察研修の実施

食品工学科1年生がセイカ食品・ヒガシマル・農業大学校、2年生が醤油醸造協同組合・福山酢醸造の視察研修を行い、農業・食品に対する興味・関心を高めるとともに、流通形態や衛生管理等を理解し資質向上を図ることが出来た。



#### (4) 教育講演会の実施

みそや・堂の大将、中堂園拓也さんは35歳まで、飲食とはまったく無縁なアパレル関係のお仕事をなさっていたそうです。自分の生い立ちから現在の南洲庵しおや・堂の話等を、話して下さいました。堂では店員の接客教育等も徹底されており、お客様が気持ちよく利用して洗練された雰囲気のあるお店になっているようで中堂園さんの人柄がでているような印象を受けました。

生徒たちも、人生の反省を踏まえた話に、今後の進路決定への大きな指標になったようです。



### 3 今後の課題

本研究で、加世田常潤高校の農産物を使った加工品の開発を行うとともに、販売会や視察研修等も行うことが出来た。このような活動等をとおして付加価値をつけた農産物の利用ができ、常潤高校の加工品として認識されるようになってきた。今後も、新たな連携をして生産物に付加価値をつけると共に6次化の学習に繋げていきたい。